

■第2次常総市都市計画マスタープラン策定委員会【第3回】 議事要旨

1 開催日時 令和5年8月7日（月）午後2時から午後3時45分

2 場 所 常総市役所1階 市民ホール

3 議 事

(1) 第2回策定委員会の指摘事項について

(2) 将来都市構造について

(3) 分野別方針について

■議事要旨

- ・「災害リスクとの共存」「知能化モビリティによる連携」「農業の高付加価値化を支援する複合系市街地」等の記載があるが、具体的にどのようなことか分からない。また、本委員会ですべてを決めるには限りがあるため、マスタープラン（以下MPとする）に記載する内容や今後の具体策等の決め方を整理した方が良い。
- ・「AIを活用したモビリティ」「マイクロモビリティ」「グリーンスローモビリティ」と記載があるが、使い分けはあるか。
⇒「AIを活用したモビリティ」は直近での実用化ではなく、将来的な導入を検討している。市の公共交通を補完するためにモビリティの特徴や場面、場所に応じて段階的な導入を想定している。
- ・今回改定するMPの将来都市構造は「既存拠点への集積」と「将来に向けた可能性を受容するために新たな受け皿を作る」という2点の大事な内容を示している。しかしながら、常総市の人口減少が進むなかで市街地拡大の必要性の説明が足りないため、課題解決とのバランスを図ったうえでの記載が必要である。
- ・資料のまちづくりの理念や基本方針から将来都市構造への繋がりや課題解決方法が見えないので、ストーリーがあった方が分かりやすい。また、交通ネットワークの図が統一されていないので、細かい運行ルートは変わると思うが、市内の公共交通の方向性や近隣市はどこまで結ぶか等、常総市の公共交通の思想を示されたい。
⇒今回は現状の常総市における需要に対して、受け皿の最大値を示させていただいた。今後20年間のうちに実行すべき材料を揃えられたと思うが、詰め込み過ぎた状態になってしまった。さらに庁内で協議を進めながら、課題やシナリオ等を整理したい。また、分野別方針について、1ページから課題とそれぞれのページ下部に対応項目を記載しており、「この課題はこのように解決する」「方針はこのような方針でやる」等、構成を再検討したい。
- ・1つ目に25ページ下部の記載内容について確認したい。AIを活用したモビリティの話なのか、或いはAIを活用してアグリサイエンスバレー地区との連携と大きな範疇を指しているのか。また、2つ目に「AIを活用したモビリティ」と記載が多くあり、さらにグリーンスローモビリティやマイクロモビリティ等の言葉もあるが、全て課題解決の手段である。「モビリティ等を使うことで課題を解

決することが出来る」というような記載をしたうえで言葉を使い分けるのではないか。そのような記載があると優先順位を付けられてより良くなると思う。

⇒1点目は法規制等の解決すべき課題等があるが、AIを活用したモビリティの話であり、まずはアグリサイエンスバレー地区と三妻駅を繋ぎ、新しい人の流れを作って石下地区や水海道地区にも波及させたい。2点目について、本市は自動車の利用者が多く、今後は自動車を所有しても乗れない高齢者が増えることも想定される。自動運転やAIを活用したモビリティでそのような方をフォローする等、地域に合うようにAIを活用したい考えである。

・交通結節機能のイメージを具体的に教えていただきたい。

⇒駅と車が交わる場所であり、アグリサイエンスバレー地区が整備され、利用者が増加している三妻駅を例にして言うと大型バスが駅のロータリーまで入れるような道路整備や道路拡幅、駅前広場の整備等を想定している。他には水海道駅や石下駅等の乗降者数が多い駅も想定している。

・分野別方針の整理が他の自治体のMPと違うので分かりにくい。都市環境と都市機能が常総市独自の整理になっており、都市環境の内容が多岐に渡り過ぎている。また、「活力とにぎわいの創出に向けたまちづくり」において、例えば中心市街地の活性化や産業集積をどのように地域の活力に繋げるのか等の記載もない。

⇒昨今、立地適正化計画の制度により都市機能という概念が生じ、街にどのような機能を誘導するかという観点が位置付けられた。土地利用と施設だけで街はできないので、都市機能や都市環境は大事な役割と考えている。また、中心市街地の考え方についても再度整理していきたい。

・高齢者に対する内容は記載があるが、障がい者や子育て世帯の親、その子供達に対する方針や内容が少ないため、検討してほしい。

・資料の前段には課題の記載があるが、それに対するまちづくりの方向性が出ていない。例えば、「学校の統廃合があるため、ここに都市計画道路を通して、さらにAIを使ったモビリティで交通弱者の学生の行動範囲が広がるまち」等、街に住みたいと期待できる内容があるとより良いと思う。

・水害対策について述べたい。1000年に1度という規模でも万が一を考えて「逃げる事」に対応する必要がある。常総市の東側地区は鬼怒川や小貝川等の浸水想定区域を占めているが、防災と都市計画の関係で言うと市外に逃げるだけではなく、避難施設や垂直避難できる場所の整備や建物立地の誘導や規制、嵩上げも考えられる。また、常総市のような土地は河川を上手に溢れさせるという考え方も必要である。最近では雨水浸透緑地帯という河川下流側に水が流れないように浸透させる方法等、様々な考え方もあるので、今後検討が必要である。

・今日のまとめになるが、優先順位や大事なところを具体的に示したうえで建付けやストーリーの整理が必要。また、常総市の都市計画において水害は大事であり、流域治水や広域連携も含めてMPの書き方を検討されたい。他の委員からも指摘があったようにAIという言葉やエリアマネジメントの表現、上水道についても書き方を検討されたい。計画は作るだけではなく、実行することが大事であるため、今日の議論を踏まえて見直しされたい。(以上)